



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫 ■ 「磁針」
 四月30日付けの『羅府新報』の「磁針」というコラムに、「クエーカー教徒と日系人」というタイトルで高濱賛(たとう)氏の一文が載った。当初、僕と同じような興味を持って人ものだなど興味津々読んでみると、何と僕の本の評ではないか。高濱氏はカリフォルニア大学・パークレー校の客員教授でCEO、東京聖書学院教授・故松木祐三先生とは姻戚関係にある。松木師を通して交流があり、出版した「静かなヒーローたち」を高濱先生に贈ったところ、書評を書いて下さったのである。その内容は身に余る光栄であった。
 二九四二年、強制収容所に向かうパサデナ発の列車に乗り込んだ日系人たちに窓越しに朝食を差し出す白人女性たちが写っている。彼女らは『戦時中、日系人に寄り添ってくれた数少ないアメリカ人』といわれたキリスト友会(フレンズ、通称クエーカー教徒)の人たちだ。排日の嵐が吹き荒れる中、仕事も財産も夢も奪われ、絶望と失意の中で旅立つ日系人たちにとって暖かいコーヒーや焼き立てのロールがどれほどありがたかったか。察するにあまりある。クエーカーの奉仕活動は日系人が収容所に入れられた後も続く。子供たちへのクリスマス・プレゼント、高校を卒業して大学に入ろうとする二世への奨学金等々。それだけではない。戦後は日本への食糧支援活動(LARA救援物資)の先頭に立ったのもクエーカーだった。日本だけに留まらない。戦後のドイツに対して、戦火のベトナムに対して、そして現在では飢饉に苦しむ北朝鮮に対しても食糧支援は続けられている。最初に奴隷解放運動を繰り広げ、女性の権利を訴えたのもクエーカーだ。全ての戦争に反対する平和主義は教会設立300年たった今も脈々と受け継がれている。ともすれば、断片的にしか伝承されないクエーカーの人たちと日系人の絆、その『裏面史』が世に出た。著者は北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会牧師で、クエーカー研究家の杉村幸さん。膨大な資料と関係者とのインタビューをもとに書き上げた力作である。前述の写真は、本書に挿入されていた『歴史の瞬間』をとらえた貴重な一枚である。
 主イエスは十字架という戦火をくぐってまでも「彼らを最後まで愛し通された」(ヨハネ十三・1)とある。収容所に引かれてゆく日系人を温かく見守ったクエーカー教徒の様に、主は罪という死地に引かれてゆく私たちに寄り添い、永遠の愛を貫き通したのである。それによって私たちは初めて神の愛を知り、心の目が開かれるようになった。実に死にまで寄り添うお方こそ救い主である。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

